

徒然づれづれ



置いてきぼり

きたの だいち

寿命が尽きたのだろうか。パソコンのプリンターのことである。活字のかすれやずれが次第にひどくなってきた。家の用で使っている分には、さほどものをプリントするわけでもないことからやり過ごしてきたが、年賀状の時節を迎えるころとなつて、その思いがいつそう強くなってきた。年式はたしかに古い、じはいえ十年にはまだ間があり、取り立てていうほどには使っていないのだが。

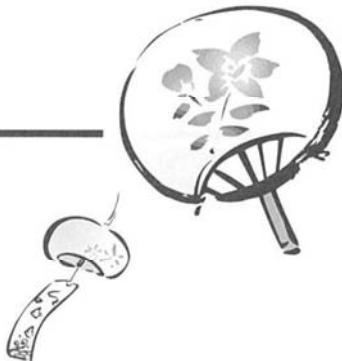
た。じつくりと腰を据えるしかなかつた。本を読み始めてみたり音楽を掛けなが
ら臨んだ。給紙できるひと纏まりの分量が仕上がるまでに、小一時間も待つてゐるの
だから、まどろみ、うたた寝をすることにもなる。それでも、まあそんなものか、と
のんびり構えているのだが、一枚の宛名面を刷るにも一分間はみなければならな
かつた。

包み隠さず打ち明けるとそれに拍車を掛けようことがある。年賀状の通信面を刷るべく望みの品質に設定すると、せじて込み入った文面ではないにもかからわらず一枚プリントするのにやや三分間も掛かってしまい、まともに立ち向かうと都合三十時間も費やされることから、不本意ながら品質レベルを落として使っていた。

これで、ちょうど一分短縮できたが、そうしてからでさえ所要時間は二十時間になり、掛かりつきりで一日半也要してい

量販店に赴き、頃合いの機種に日星をつけたが、御自当てのものは接続部の仕様が最新のものに切り換わってしまい、繋げないことが分かった。気を取り直して手持ちのパソコンに接続できる機種を方々さがした。繋ぐことができるのは一機種しかなかつた。意中のものは手にできず、しかも値段は倍になってしまった。

だが、鼻歌交じりで包みを解き、机上に据えてケーブルを接続した。こうなると大人も子供も一緒だ、と自らをあざけりながらソフトウエアをコンピューターにインストールし始めたが、ハードディスクの空き容量が足りないと。たくさんの手紙



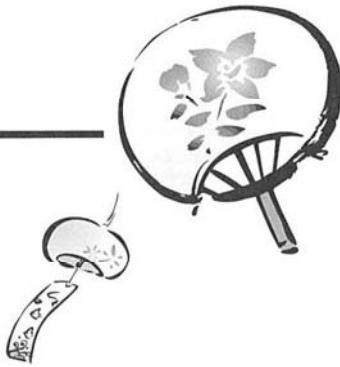
徒然 つれづれ

や資料をごみ箱に放り込んでみたが、空き容量の上からはほとんど効き目がなかつたことから、普段、師と仰ぐ姫殿に教えを請いながら、プリンター側の機能を厳選し、甚だしげほどまでに容量を抑えた。これでようやくインストールできた。さつそくA4版での試し刷りである。またたく間に排紙トレイの上に流れてきた。音は立つたのだろうか。もちろん年賀状にもプリントしてみた。たしかに速い。そのスピードは秒針に目をやるまでもなかつた。いまどきのプリンターは速くて静かなばかりか、デジタルカメラからのものを始め、スキヤナーやファックス機能までもが組み込まれるなど隔世の感がある。

この年齢になると物欲そのものが失せてくるようだ。十分ではないにしても一通りの物が揃つてゐるのも一因だろう。宝くじにでも当れば振り動かされるに違いないが、氾濫する商品情報には徐々に目を凝らさなくなり、壊れてしまつてから店

を訪れるケースが多くなつた。そのせいか、じきつとさせられたり、ええつと思うことにたびたび出会う。

スーパーなどの駐車場で、周囲には誰もいないのに、がしゃつというようなやや鈍い音がして、うん? 何があったのかなとさきよろきよろさせられたり、朝の通勤途上などでこれまで人が乗つていらない車のエンジンが、出し抜けにぐるんと掛かり、一瞬、おおっ! と声を上げながら肩をすくませ飛びのかされた。がしゃつという施錠やその解除音は、さほどのこともないのですぐに慣れたが、不意のエンジン起動音には誰もがそうであろうがその都度驚かされる。だが、エンジンの遠隔始動は、運転席で寒さに打ち震えながら暖氣することを考えると、ありがたい仕掛けを考えたものだ。持ち主を見掛けたら、この果報者め! と目を細めながら肩口の辺りを小突いてやるうと、かねがね思つてゐるのだが、敵は悠然と朝食を摂つてゐるに違いなく、表には出でこないのだからそういうものはない。もつとも、見ず知らずの人なのだが…。



徒然つれづれ

わが家の車はすでに四回目の車検を受け、それからでもさうに一年が過ぎようとしている。その内に、という思いを抱きながらディーラーの店を覗いてみた。座り心地を確かめ、フロントの計器類にうなすきながら車外にて、羨望の眼差しで滑らかな線をなぞっていると、ふとアンテナがなにことに気付いた。ぐるりと一廻りしてみたが……、ない！ オプションということはない。聞くは一時の恥、聞かぬは末代の恥とばかりに訊ねてみると、リアウインダーに張り巡らしたというじゃないか。電熱線と見分けがつかない線に、へえー、と感心しながら、これならアンテナを悪戯される心配がないかと引き揚げてきた。未だ、かたくなにオートマチック車を拒んでいる程度のものが、そもそも車にかかることで、どきつも、へえーもないのだが。

…………

ひとほど左様に世の中から置いてきぼりを食らい、わが家のものはことごとく旧式になってしまった。置物や調度品に目をやりながら、わが家で一番の年代ものは何だ？ とつぶやくと、意味ありげな目をこかひじに向けて、

「あなたじやない？」

とのたまうではないか。たしかに！ と目で應えてやった。似たり寄つたりなんだがね。

つい最近のことだが、寝室の電灯が一段と暗くなってきた。蛍光管を取り換えてみたが、明るくなつたようには感じない。こ